

15章 左官工事

6節 仕上塗材仕上げ

15.6.1 一般事項

この節は、建築用仕上塗材を用いる内外装の仕上工事に適用する。

15.6.2 材料

(1) 仕上塗材

- (ア) 仕上塗材は、JIS A 6909（建築用仕上塗材）による。ただし、内装仕上に用いる塗材のホルムアルデヒド放散量は、特記による。特記がなければ、F☆☆☆☆とする。
- (イ) 仕上塗材は表 15.6.1 により、種類（呼び名）、仕上げの形状及び工法は特記による。
- (ウ) 仕上塗材の製造所において指定された色、つや等に調合し、有効期間を経過したものは使用しない。
なお、下塗材、主材及び上塗材は、同一製造所の製品とする。
- (エ) 内装薄塗材及び内装厚塗材で吸放湿性を有する塗材を用いる場合は JIS A 6909 に基づく「調湿形」の表示のあるものとし、適用は特記による。
- (オ) 内装薄塗材Wをコンクリート、セメントモルタル等のアルカリ性の下地に適用する場合は、JIS A 6909 に基づく「耐アルカリ性試験合格」の表示のあるものを用いる。
- (カ) 内装薄塗材Wは、JIS A 6909 に基づく「かび抵抗性」の表示のあるものを用いる。
- (キ) 複層仕上塗材の耐候性は、特記による。
- (ク) 複層仕上塗材の上塗材は表 15.6.2 により、樹脂、外観及び溶媒の種類は特記による。
- (ケ) 増塗材は、主材基層塗りに用いる材料とする。
- (コ) 設計図書に定められた防火材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

表15. 6. 1 仕上塗材の種類（呼び名）、仕上げの形状及び工法（その1）

種類	呼び名	仕上げの形状	工法 ^{(注) 4}	所要量(kg/m ²) ^{(注) 5}		塗り回数
薄付け 仕上塗材	外装薄塗材 S i	砂壁状 ゆず肌状	吹付け	下塗材 ^{(注) 1} 主 材	0.1以上 1.0以上	1 2
		ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り	下塗材 ^{(注) 1} 主 材	0.1以上 0.6以上	1 1～2 ^(注) 6
	可とう形 外装薄塗材 S i	砂壁状 ゆず肌状	吹付け	下塗材 主 材	0.1以上 1.2以上	1 2
		ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り	下塗材 主 材	0.1以上 1.2以上	1 1～2 ^(注) 6
	外装薄塗材 E	砂壁状 ゆず肌状	吹付け	下塗材 ^{(注) 1} 主 材	0.1以上 1.0以上	1 2
		平たん状 凹凸状	こて塗り	下塗材 ^{(注) 1} 主 材	0.1以上 0.6以上	1 1～2 ^(注) 6
		ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り			
		着色骨材砂壁 状	吹付け	下塗材 ^{(注) 1} 主 材	0.1以上 1.5以上	1 2
			こて塗り	下塗材 ^{(注) 1} 主 材	0.1以上 0.9以上	1 1～2 ^(注) 6
	可とう形 外装薄塗材 E	砂壁状 ゆず肌状	吹付け	下塗材 主 材	0.1以上 1.2以上	1 2
		平たん状 凹凸状	こて塗り	下塗材 主 材	0.1以上 1.2以上	1 1～2 ^(注) 6
		ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り			
	防水形 外装薄塗材 E	ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り	下塗材 増塗材	0.1以上 0.7以上	1 1 1～2 ^(注) 6
		凹凸状	吹付け	主材基層 主材模様	1.0以上 0.4以上	1
	外装薄塗材 S	砂壁状	吹付け	下塗材 主 材	0.1以上 1.0以上	1 1
	内装薄塗材 C 内装薄塗材 L	凹凸状	吹付け	下塗材 ^{(注) 1} 主 材	0.1以上 0.8以上	1 1～2 ^(注) 6
		平たん状 凹凸状	こて塗り			
		ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り			
	内装薄塗材 S i 内装薄塗材 E	砂壁状じゅら く ゆず肌状	吹付け	下塗材 ^{(注) 1} 主 材	0.1以上 0.6以上	1 1～2 ^(注) 6
		平たん状 凹凸状	こて塗り			
		ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り			

公共建築工事標準仕様書対応 日本ペイント製品塗装仕様書

	内装薄塗材W	京壁状じゅらく ゆず肌状	吹付け	下塗材 ^{(注) 1} 主 材	0.1以上 0.3以上	$\frac{1}{1 \sim 2^{(注)}} \frac{1}{6}$
		平たん状 凹凸状	こて塗り	下塗材 ^{(注) 1} 主 材	0.1以上 0.2以上	$\frac{1}{1 \sim 2^{(注)}} \frac{1}{6}$

表 15. 6. 1 仕上塗材の種類（呼び名）、仕上げの形状及び工法（その2）

種類	呼び名	仕上げの形状	工法 (注) 4	所要量(kg/m ²) (注) 5	塗り回数
厚付け 仕上塗材	外装厚塗材 C	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材 0.1以上 主材基層 3.0以上 主材模様 2.0以上 上塗材 (注) 3 0.3以上	1 1 1 2
		平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こて塗り	下塗材 (注) 1 0.1以上 主 材 5.0以上 上塗材 (注) 3 0.3以上	1 1~2 (注) 6 2
	外装厚塗材 S i 外装厚塗材 E	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材 0.1以上 主材基層 1.5以上 主材模様 1.5以上 上塗材 (注) 2 0.3以上	1 1 1 2
		平たん状 凹凸状 ひき起こし	こて塗り ローラー塗り	下塗材 0.1以上 主 材 3.0以上 上塗材 (注) 2 0.3以上	1 1~2 (注) 6 2
	内装厚塗材 C	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材 0.1以上 主材基層 3.0以上 主材模様 2.0以上	1 1 1
		平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こて塗り	下塗材 (注) 1 0.1以上 主 材 3.5以上	1 1~2 (注) 6
	内装厚塗材 L	平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こて塗り	下塗材 (注) 1 0.1以上 主 材 2.5以上	1 1~2 (注) 6
	内装厚塗材 G	平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こて塗り	下塗材 (注) 1 0.1以上 主 材 2.5以上	1 1~2 (注) 6
	内装厚塗材 S i 内装厚塗材 E	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材 0.1以上 主材基層 1.5以上 主材模様 1.5以上	1 1 1
		平たん状 凹凸状 ひき起こし	こて塗り ローラー塗り	下塗材 0.1以上 主 材 3.0以上	1 1~2 (注) 6

表 15. 6. 1 仕上塗材の種類（呼び名）、仕上げの形状及び工法 （その3）

種類	呼び名	仕上げの形状	工法 (注) 4	所要量(kg/m ²) (注) 5	塗り回数
複層仕上塗材	複層塗材 C E 複層塗材 R E 複層塗材 S i 複層塗材 E	凸部処理 凹凸状	吹付け	下塗材 0.1以上 主材基層 0.7以上 主材模様 0.8以上 上塗材 0.25以上	1 1 1 2
		ゆず肌状	ローラー塗り	下塗材 0.1以上 主 材 1.0以上 上塗材 0.25以上	1 1~2 ^(注) 6 2
	可とう形 複層塗材 C E	凸部処理 凹凸状	吹付け	下塗材 0.1以上 主材基層 1.0以上 主材模様 0.5以上 上塗材 0.25以上	1 1~2 ^(注) 6 1 2
		ゆず肌状	ローラー塗り	下塗材 0.1以上 主 材 1.0以上 上塗材 0.25以上	1 1~2 ^(注) 6 2
	防水形複層塗材 C E 防水形複層塗材 R E 防水形複層塗材 E	凸部処理 凹凸状	吹付け	下塗材 0.1以上 増塗材 0.9以上	1 1
		ゆず肌状	ローラー塗り	主材基層 1.7以上 主材模様 0.9以上 上塗材 0.25以上	2 1 2
	吹付用軽量塗材	砂壁状	吹付け	下塗材 0.1以上 主 材 厚5mm以上	1 1~2 ^(注) 6
		平たん状	こて塗り	下塗材 0.1以上 主 材 厚3mm以上	1 1~2 ^(注) 6
	こて塗用軽量塗材	砂壁状	吹付け	下塗材 0.1以上 主 材 厚5mm以上	1 1~2 ^(注) 6
		平たん状	こて塗り	下塗材 0.1以上 主 材 厚3mm以上	1 1~2 ^(注) 6

- (注) 1. 下塗材を省略又は専用の下地調整材を用いる場合は、仕上塗材の製造所の指定による。
2. 上塗材の適用は、特記による。
3. 上塗材がセメントスタッコ以外の塗材の場合は、特記による。
4. 工法欄の吹付け、ローラー塗り及びこて塗りは、主材の塗付けに適用する。
5. 所要量は、被仕上塗材仕上げ面単位面積当たりの仕上塗材（希釈する前）の使用質量とし、製造所の指定による。
なお、表の所要量は、2回塗りの場合、2回分の使用質量を示す。
6. 塗り回数は、仕上塗材の製造所の指定による。
7. 複層塗材の上塗りがメタリックの場合の所要量及び塗り回数は、15.6.6(13) (エ) (a) による。

表 15. 6. 2 複層仕上塗材の上塗材の種類

樹脂 外観 溶媒	アクリル系			シリ カ系	ポリウレタン系			アクリルシリコン系			ふっ素系		
	つや あり	つや なし	メタ リック	つや なし	つや あり	つや なし	メタ リック	つや あり	つや なし	メタ リック	つや あり	つや なし	メタ リック
溶剤系	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
弱溶剤系	○	○	—	—	○	○	—	○	○	—	○	○	—
水 系	○	○	—	○	○	○	—	○	○	—	○	○	—

凡例 ○印：選択可能、—印：選択不可

(注) つやなし及びメタリックは、可とう形複層塗材及び防水形複層塗材には適用しない。

- (2) 下地調整塗材は、JIS A 6916（建築用下地調整塗材）による。
- (3) 水は、15.3.2（2）による。
- (4) (1)から(3)まで以外の材料は、仕上塗材の製造所の指定する製品とする。

15.6.3 施工一般

- (1) 15.1.3 の見本塗板は、所要量又は塗厚が工程ごとに確認できるものとする。
- (2) 仕上げ工程の放置時間等は、18.1.4 [施工一般] (8)による。
- (3) 施工場所の気温が低い場合は、18.1.6 [施工管理] (1)による。
- (4) 外部の仕上げ塗りは、降雨、多湿等により結露のおそれのある場合又は強風時には、原則として、行わない。
- (5) 仕上げに溶剤を用いる場合は、換気をよくして、溶剤による中毒を起こさないようにする。
- (6) 工程ごとの所要量等の確認を、15.6.7 により行う。
- (7) シーリング面に仕上塗材仕上げを行う場合、シーリング材が硬化した後に行うものとし、
塗重ね適合性を確認し、必要な処理を行う。

15.6.4 下地処理

- (1) モルタル、プラスター下地等で、ひび割れがある場合は、必要に応じて、U字形には
つり、仕上げに支障のないモルタル等で充填し、14 日程度放置する。ただし、気象条件
等によりモルタル等の接着が確保できる場合には、放置期間を短縮することができる。
- (2) 外壁のコンクリート下地等のひび割れの処理方法は、監督職員と協議する。
- (3) モルタル下地の仕上げは、表 15.6.3 により、仕上塗材の種類に応じた○印の仕上げ
とする。

表 15.6.3 仕上塗材の種類に応じたモルタル下地の仕上げ

仕上塗材の種類（呼び名）	モルタル下地の仕上げ			備 考
	はけ引き	金ごて	木ごて	
外装薄塗材 S i、外装薄塗材 E、外装薄塗材 S、 内装薄塗材 S i、内装薄塗材 E、内装薄塗材 W、 外装厚塗材 S i、外装厚塗材 E、内装厚塗材 S i、 内装厚塗材 E、複層塗材 C E、複層塗材 S i、 複層塗材 E、軽量骨材仕上塗材	○	○	○	薄塗材の 場合は、 金ごて又 は木ごて
内装薄塗材 C、内装薄塗材 L、外装厚塗材 C、 内装厚塗材 C、内装厚塗材 L、内装厚塗材 G	○	—	○	薄塗材の 場合は、 木ごて
可とう形外装薄塗材 S i、可とう形外装薄塗材 E、 防水形外装薄塗材 E、可とう形複層塗材 C E、 複層塗材 R E、 防水形複層塗材 C E、防水形複層塗材 E、 防水形複層塗材 R E	—	○	—	—

- (4) ALC パネル下地の場合は、ALC パネル面の欠け、穴等を、ALC パネルの製造所の
指定する補修モルタルで平滑にする。
- (5) 押出成形セメント板下地の場合は、押出成形セメント板面の欠け、表面の傷等を、押出
成形セメント板の製造所の指定する補修材料で平滑にする。

15.6.5 下地調整

- (1) コンクリート面の下地調整は、次による。
 - (ア) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。
 - (イ) 下地面の清掃を行う。
 - (ウ) 下地調整塗材C-2 を、1～2mm 程度全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、スラブ下等の見上げ面、厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。
 - (エ) 下地の不陸調整厚さが1mm 以下の場合は、(ウ)の下地調整塗材 C-2 に代えて、下地調整塗材 C-1 を平滑に塗り付けることができる。
 - (オ) 下地の不陸調整厚さが3mm を超えて 10mm 以下の場合は、(ウ)の下地調整塗材 C-2 に代えて、下地調整塗材 CM-2 を平滑に塗り付ける。
- (2) モルタル、せっこうプラスター及びプレキャストコンクリート面の下地調整は、次による。
 - (ア) 下地面の清掃を行う。
 - (イ) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、仕上塗材の下塗材で代用する場合は、省略することができる。
- (3) せっこうボード面及びその他ボード面の下地調整は、次による。
 - (ア) 表 18.2.7 [せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ] のB種とする。
 - (イ) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。
- (4) ALCパネル面の下地調整は、次による。
 - (ア) 下地面の清掃を行う。
 - (イ) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、下地調整塗材Eで代用する場合は、省略することができる。
 - (ウ) 屋外は、仕上塗材の製造所の仕様により下地調整塗材 C-1 又は下地調整塗材Eを全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、外装薄塗材S仕上げの場合は、下地調整塗材 C-2 を全面に塗り付けて、平滑にする。
- (5) 押出成形セメント板面の下地調整は、次による。
 - (ア) 下地面の清掃を行う。
 - (イ) 日本建築学会材料規格 JASS 18 M-201[反応形合成樹脂シーラーおよび弱溶剤系反応硬化形合成樹脂シーラー]に基づく塗料を全面に塗り付ける。
 なお、仕上塗材の製造所の仕様により、下塗材を JASS 18 M-201 に基づく塗料で代用することができる。

日本ペイント 下地調整材一覧 (JIS A 6916他)

C-1	1材フィラー#200
C-2	1材カチオンフィラー
CM-2	—
E	アンダーフィラーS又はアンダーフィラーAL
合成樹脂エマルジョンシーラー (JIS K 5663)	水性透明シーラー、水性ホワイトシーラー、 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト)、 水性シミ止めシーラーII
JASS 18 M-201	ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト)、 浸透性シーラー (新)、 ファイン浸透造膜シーラー、 ファインパーフェクトシーラー (透明・ホワイト)